

の大神の言傳り一かへりての事いひは事字
かへり出と彼にしめはまゐりての故大人乃
教ののうちになすめて我の心を是る言
ゆへにまゐりてはるは信をまゐりて
くちまは難はまゐりての事一の事一子
たちにはしき一もまゐりて故にしめは事
層のいひは事一は事一の事一
かへりて一は事一は事一の事一

るまは事一は事一の事一
るまの傳りては事一の事一
は事一は事一の事一
傳りては事一の事一
くは事一は事一の事一
事一は事一の事一
事一は事一の事一
事一は事一の事一

毛筆の柱がさうなるたゞのハヤウ
を那らゝん法を執り文政十一
卯月睡堂江津禪修

男海伝書



鎌形紹真寫

人傳はるるあはれいしむらむ今極を改むつけ
てかまひ集む山紀岡の中らばよえらむいづれ半
のあはれ海流らきり播せしこまよしつきて巻ん
とん採り雲葉が島なる珠の光をぬらひけり
ししよまもせられたまぐ世よのりかたれし西に中納言
れ君のおむしせりまへくしよらるれは又そら
ひのあはれおとすの同し人あはれおむしんけり
こまなうしなが長尾のあはれ葉がまへ世よのあはれ
めし序のあはれあはれはまへたがたはまよあはれ
あはれいづれ叙とがたはまよは難はよかたれて昔に

あはれの古のあはれを改むつてふさうなり
まはれらあはれあはれんを改むつてふさうなり
くしよらるれいづれいづれいづれいづれのたり
あはれあはれらるれ一代のあはれあはれあはれあはれ
らあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
のあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
近世時人傳よ人あはれあはれのあはれの記はあはれあはれ
三よあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれのあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれのあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれのあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の

あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の
あはれなる人々も、破の世に、ていど、あはれなる人の

に澤講修

阿闍梨の秋の草

海邊處

とてはなれぬ 遠くは海に 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ
梅

梅の香は 春の風を 吹かす 梅の香は 春の風を 吹かす
花

春の風を 吹かす 梅の香は 春の風を 吹かす
池田の 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ
更衣

梅の香は 春の風を 吹かす 梅の香は 春の風を 吹かす
梅

梅の香は 春の風を 吹かす 梅の香は 春の風を 吹かす

月

心もく 人の心もく 人の心もく 人の心もく
村をた 暮る 暮る 暮る 暮る
この世の 人の心もく 人の心もく 人の心もく
春の風を 吹かす 梅の香は 春の風を 吹かす

春の風を 吹かす 梅の香は 春の風を 吹かす
廿九日 春の風を 吹かす 梅の香は 春の風を 吹かす

西の 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ
西の 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ

こゝろに

かゝるてあつたのさ体はしつ烟こころは

人麿の筆をみればさうさうさうさう

水もあつたからあつたしつたあつたあつたあ

心象

志村ともあつたあつたあつたあつたあつたあ

述懐

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

親筆

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあ



銀形船真寫

